

ポスト安倍の条件は？

非常時の首相像は？

政治アナリスト
元杏林大学教授

豊島典雄

安倍政権の功績

安倍首相は8月28日に辞意を表明した。

100年に1度のパンデミックのコロナの感染拡大に、米中の新冷戦状態である。感染症から安全保障まで難問を抱えた非常時であり、「獅子の威と狐の狡知を併せ持つ」タフな新指導者が求められる。

安倍首相は8月17日、24日にも慶応大病院で検診を受けた。コロナ対策で疲労が蓄積し、持病の潰瘍性大腸炎が悪化したのだ。第1次安倍内閣の退陣時を思い起こさせる。

安倍政権の評価はどうなるだろうか。大胆な金融緩和、機動的な財政運営、成長戦略からなるアベノミクスが日本を元気にしたことも事実である。

外交関係者には「特定秘密保護法、国家安全保障局の創設、安保関連法がなければトランプ政権とまともな

関係を持てなかった。この3つは安倍政権の功績です」「良好な安倍トランプ関係は他国に羨まれている日本外交の宝」との評価はある。野党

の中にも「国政選挙の連戦連勝は敵ながら天晴れだ。政治の安定をもたらしたことになる」という評価はある。我が国の国際的地位の向上に資したとも言える。

しかし、吉田茂の講和条約、日米安保条約締結、岸信介の日米安保改定、池田勇人の所得倍増、佐藤栄作の沖繩返還、田中角栄の日中国交正常化のような教科書に載るようなレガシーは残せていない。悲願の北方領土返還、拉致被害者奪還、憲法改正は実現できなかった。

8月24日に、連続しての最長政権になった安倍内閣は、その直後に店仕舞いになった。

余力を残して

歴代内閣には様々な退陣のパター

ンがある。

余力を残して退陣したのは郵政民営化の小泉純一郎、三公社民営化の中曽根康弘である。小泉は退陣して相当の年月を経ても大学生にアンケート調査すると「総理になってほしい人」で1位だった。

中曽根は同盟国米国のレーガン大統領との間に、ロンヤス関係を築き、国鉄、電電公社、日本専売公社の民営化を断行し、ダブル選挙の大勝で任期を1年延長された上に、竹下登を後継に指名することに成功した。

伊豆大島の三原山の大噴火時の全島避難も見事だった。だから大災害が起きると「中曽根さんならどう処理したろう」と言われる。

退き際を誤る

吉田茂は好んで「吞舟の魚は支流に游がず」と揮毫したが、戦後日本政治の巨人だった。

「吉田学校」と言われるように池

田勇人、佐藤栄作等の人材を育てた。日米協調、軽軍備、経済復興で戦後政治の路線を敷き、歴史に残る吉田内閣だが、退き際を誤ったようだ。

昭和29年12月6日、野党3党提出の吉田内閣不信任案が提出された。吉田は不信任案が可決された場合は解散を断行すると表明した。だが、緒方竹虎副総理、大野伴睦自由党総務会長ら自由党内の多数は総辞職を主張した。解散論で吉田に同調したのは池田勇人幹事長、佐藤栄作、保利茂ら側近の少数に過ぎなかった。

だから、不信任案の上程日の7日、目黒の首相公邸で開かれた自由党幹部会や閣議は対立した。解散論の吉田に対して、緒方は「政治家をやめて田舎に帰る」と反対した。また、大野伴睦は「内閣は短く党は長い。総裁といえども党を無視することは許さん」と反対した。

閣議を休憩して2階の書斎に入った吉田を追いかけて池田、佐藤、保利は総辞職を進言した。3人の意見を聞いた吉田は「ブイと席を立ち、隣の部屋に入り、そのまま神奈川県大磯の私邸に帰った。正午過ぎ再開された閣議では、首相不在のまま総辞職の手續きが取られた。戦後3位の7年2ヶ月の長期政権は終わった。

吉田は昭和27年4月の講和条約発効・独立を花道に退陣すべきだった。「吉田の政治に対する責任感あるいは情熱だったかもしれないが、第4次、第5次内閣は、吉田にとつて、あらずもがな」だったといえる」(岸本弘一著政界ライバル物語)。

君、何事も運命だよ

石橋湛山は昭和31年12月23日に首相に就任し、翌月22日に、母校早稲田大学の総理就任祝賀会に出た。石橋は吹きさらしの大隈庭園で、オーバークートも着ずに1時間半も座り続けた。遊説の疲労とこの日の寒さが、石橋の健康を損ね、石橋は23日に脳梗塞に倒れた。当初、医師は2週間もすれば治ると言っていたが、病状は好転しなかった。

石橋と同じく早稲田大学出身の浅

沼稲次郎・社会党書記長からは「予算委員会に1日出席し、全閣僚の答弁に責任を持つと言ってくれば、あとは休んでくれていい」と、親切な申し出があった。武士の情けである。しかし、言語が不明瞭でも出席できる状態ではなかった。

そこで、石田博英官房長官と三木武夫幹事長は腹を固め、2月22日に、医師による診断を行い、その結果によつて内閣の進退を決めることにした。診断は「2ヶ月以上の静養」と出た。石橋に伝えるとただ一言、「君、何事も運命だよ」と言った。

石田によると「無理をすれば政権延命も不可能ではなかった。しかし、それよりも私たちは、潔い進退によつて、石橋内閣の志を後世に伝えたいと思つた」(自由民主党史)と言つた。

石橋の辞意を伝える書簡に「私の政治的良心に従います。また万一にも政局不安が私の長期欠席のため生ずることがあります。これは全く私の本意とするところ」とあつた。

「散りぬべき時知りてこそ世の中の花も花なれ人も人なれ」(細川ガラシャ)である。

石橋内閣は在任わずか65日で、戦後第2位の短命政権だが、見事な退き際である。

総理大臣の条件は

ポスト安倍に求められる総理大臣像だが

①明確な政権構想があるか：池田勇人の所得倍増政策、岸信介の安保改定、佐藤栄作の沖縄返還のような国取りの大義を提示しているか？

②支持基盤があるか：自派閥内に政府と党の要を担える人材を持っているか。派閥があまり小さくては政権の支えにならない。

③自民党3役、特に要の幹事長、政府なら外務大臣、財務大臣の経験は必要である。

④胆力があるか：日本周辺は「渡る世間は鬼ばかり」である。山内昌之著『リーダーシップ 胆力と大局観』に「リーダーシップを発揮する際に、知識や教養だけでなく、危機にあつてもたじろがない胆力や度胸を持つ必要性を本書では強調した。外国人の政治家と対面したときに、心のおびえや不安がすぐ顔に出る菅直人氏のような首相では困るのだ。とにかく、日本の首相はじめ政治のリー

ダーには、歴史や伝統に培われた先人の知恵を学びながら、未知との遭遇にも毅然とした胆力を養うことを期待しておきたい」とある。

プーチン、習近平等に対峙できるのは誰か？

そして時代が求める総理大臣がある。昭和20年8月から27年4月までの日本は連合国占領下にあつた。連合国の日本占領管理の命令系統は、極東委員会→米国政府→連合国最高司令官→日本政府→日本国民のラインだった。連合国の日本占領管理は直接軍政によらず、間接統治を採用した。

この占領下に総理大臣になったのは東久邇宮稔彦、幣原喜重郎、片山哲、芦田均、吉田茂の5人。このうち幣原、芦田、吉田の3人は元外交官である。それは占領下の政府は、総司令部との渉外関係を主な任務としていたからだ。

ポスト安倍の政権は、内にコロナ感染拡大防止と経済活性化の両立、対外的には日米同盟の強化による中国の膨張政策の抑止等の難題がある。この非常時の総理大臣の条件を備えたものは誰か？